

## ■今月の特選句

2021年7月



## ソフトクリームむかしのかほでなめている

大林和代

ソフトクリームでタイムスリップ。昔の顔になって舐めているという表現がいい。まさに童心である。子どもの頃のよき時代に戻れる小道具だね。



## 草取りの庭は土俵よ待ったなし

吉川正紀子

庭の雑草は抜いても抜いてもすぐに生えてくる。追っかけっこで、一時も油断できない。相撲の待ったなしに掛けた発想がいいね。



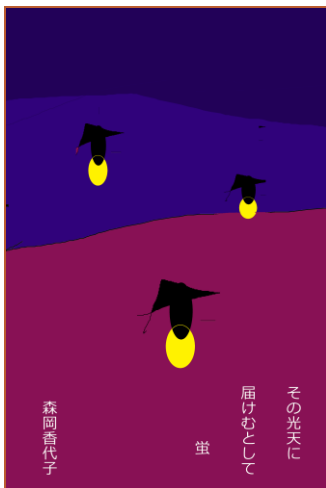
## 根っからの無党派ばかり葱坊主

鈴木和枝

葱坊主は一本気とも無邪気ともいえる。集団ではいるが、それぞれ独立していて集団に頼ってもいない。餓鬼大将になるというのが夢。

## ■今月の特選句

2021年7月



## その光天に届けむとして蛍

森岡香代子

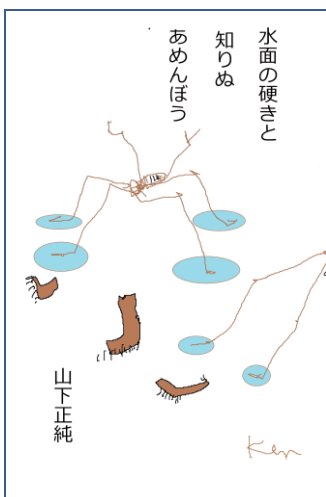
蛍の光は実に幻想的である。光を天に届けるために高上りしているのだと思い込む純粋がいい。佳句には詩があるが、やはり童心は名句の源だね。



## 燕の巢中古物件そこここに

井野ひろみ

燕は古い巢を再利用することも多い。ところが昨今、空き物件が多い。燕が少なくなっている。住宅の構造が変わり、巢の建材の泥土も減った。



## 水面の硬きと知りぬあめんぼう

山下正純

あめんぼうの足には細かい毛がたくさんあり、油がついているので水をはじいて沈まない。正純君も足に油を塗って水面を歩いてみるといいね。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

経済の止まる音聞く卯月かな ・・・遠くにコロナらしき嘲り	伊藤浩睦
大納言の位を誇る小豆蒔く ・・・恭しくも蒔かせていただく	久松久子
雲の峰力士の四股名にありそうな ・・・色が白くて気立てやはらか	柳村光寛
牛蛙男が男たりし頃 ・・・色男などあてにはならぬ	百千草
早苗饗や血潮のごとく村に水 ・・・季語に「水番」「水の喧嘩」も	東 麗子
みてみてと隣家のバラを見せたくて ・・・バラの面倒見るはお隣	山本 賜
耳うちの来世あらむと業平忌 ・・・口約束はお得意のわざ	山家志津代
コロナ禍が季語のマスクを奪いとり ・・・俳人たちは被害の届け	堤 宏文
サングラス掛けて覗きし腹の底 ・・・白か黒かと色の確認	椋本望生
雨降って繕いを戻せる夫婦滝 ・・・雨量の適度こそが肝心	柳 紅生
塞翁が馬と心得大昼寝 ・・・寝過ぎたとても塞翁が馬	吉原瑞雲
厚化粧剥がしてしまふ薄暑光 ・・・白日の下素顔をさらす	稲葉純子
父の日や百円握るちつちやい手 ・・・金額よりも気持ちが嬉し	向田将央

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

空豆か「ジャックと豆の木」の豆は  
 山けぶる蜜柑の花を匂はせて  
 五月鯉狙ふとんびのびいひよろろ  
 羽抜鳥ラップをしたい妻の口  
 夏の家バラエティーのファッションショウ  
 犬猫は羨ましいと鶉飼の鶉  
 聖五月診察券とくすり増ゆ  
 自粛する寿司屋の水槽に穴子  
 ジェット機に蹴散らかされし梅雨の雲  
 学食の個食黙食青葉雨  
 飛沫感染さらふ金魚の鰓(えら)呼吸  
 夏二度目退散してもいいころな  
 靈魂の宿る丸石蛇苺  
 白靴に消化半ばの鳥の糞  
 扇風機風が動けば止められて  
 安心安全とはかくも退屈失樂園  
 負けまじを相撲を土俵に寝転がり  
 ぬいぐるみの尻を乾かす青葉風  
 まばらなる早苗の列のそちこちに  
 ワクチンは高齢者優先走り梅雨  
 恒例の猛暑予想を聞く五月  
 半径三尺男性用の大日傘  
 人住まぬ家が隣に七変化  
 白桃の傷に触れずに夜になる  
 初蚕飛んで越えざる夜の河  
 雨靴もちよつとひと息梅雨晴間  
 のつぺらぼうの青梅黄熟恋をして  
 明易し余生の長くなりさうな  
 小判草十両活けてほくそ笑む  
 夏野菜浮いてぽこぽこカレーかな  
 まいまいの渦を雨粒滑り落つ  
 ホイップの白コーヒゼリーをすべり落つ  
 夏の宵飛行機雲のその先は  
 花菖蒲雨を欲しいと空仰ぐ  
 梅雨はげしショパンの幻想即興曲

相原共良  
 相原共良  
 相原共良  
 青木輝子  
 青木輝子  
 青木輝子  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 荒井 類  
 荒井 類  
 荒井 類  
 井口夏子  
 井口夏子  
 井口夏子  
 池田亮二  
 池田亮二  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 伊藤浩睦  
 伊藤浩睦  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲葉純子  
 稲葉純子  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 上山美穂  
 上山美穂  
 上山美穂  
 梅野光子  
 梅野光子  
 梅野光子

十代の青さの空よ夏めける  
 頭と脚の真逆に登山のテントの朝  
 守宮とは三日三晩で友だちに  
 川蟬にシャッター一点三宝池  
 先客は椅子にひそみし夏落葉  
 見守るや子雀たちの朝ごはん  
 草笛を吹けば懐かし友の声  
 お城下にビルの林立梅雨の入り  
 虫干の絵本と幼子並ばせる  
 足音を殺して蜘蛛は月を逃ぐ  
 ひと刷毛の雲を残して梅雨晴間  
 くたびれたステテコ映える「だっふんだ〜」  
 サンバイザーないと騒ぐはバンパイア  
 アイロンを忌みしまい込む麻のシャツ  
 墓轆かれ轆かれて干乾びて  
 熱帯夜妻の寝相に熱の冷め  
 窓開けて冷房入れる電車かな  
 夏服でマスクをつけて歩きたり  
 五月雨や蕪村の一句蘇える  
 月からの使者は月光仮面なり  
 島国の日本の夏よコロナをゼロに  
 雨蛙けろけろけると明日は晴れ  
 雨蛙末はウイーンかブロードウェイ  
 言い過ぎを素直に詫びて青蛙  
 高みより警鐘鳴らすカンパニユラ  
 虎耳草の花弁は華奢で雄弁で  
 梔子の無言を通し切れざるよ  
 初夏の燕や斜め上へ飛ぶ  
 蛇に足生えさうなほど梅雨長し  
 鬼の子も混じつてゐるやも夏祭  
 夏の月ウェルダンよりもレアがいい  
 フラダンス得意ハワイの熱帯魚  
 なめくじの足跡ひかり輝けり

遠藤真太郎  
 遠藤真太郎  
 遠藤真太郎  
 大林和代  
 大林和代  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 加藤潤子  
 加藤潤子  
 加藤潤子  
 北熊紀生  
 北熊紀生  
 木村 浩  
 木村 浩  
 金城正則  
 金城正則  
 金城正則  
 久我正明  
 久我正明  
 久我正明  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 小林英昭  
 小林英昭  
 小林英昭

どくだみとコロナの蔓延手立てなく

聖火リレー沙保里さんより母幸代さんへ

夏場所のやはり観客をりてこそ

兄となる幼は爺と菖蒲の湯

前箆に筍乗せて立ち話

節くれて皺の手つなぎ花見かな

こいのぼり孫の音痴は親に似て

三密の真っ只中につばめの子

広辞苑枕代わりに三尺寝

背広から着替え田植の息子かな

旅鞆開ければ妻の辣蕪漬

今日の一ページ葱坊主に陣取られ

葱坊主の采配 歯医者予約日

早乙女は今年八十まだ主役

会食は自肅の御祓川まつり

形代は死んだふりして流れけり

並ばずとよいのも不安走り梅雨

百歳に叩き落とされ蠅二匹

椋鳥に戸袋貸して一人住む

顔何処マスクの上にサングラス

鬼滅より菌滅欲しき夏ならむ

半年は反省ばかり半夏生

純喫茶カレーのらっきよは食べ放題

梅雨晴間合わない服は捨てちまえ

早乙女はゴム長靴の高校生

何様のための憲法記念日よ

山若葉こんな所に銅像が

雲上に昇る気骨の鯉のぼり

疫病の絶えぬにまたも夏は来ぬ

招かぬに豪雨を連れて早き梅雨

麦の秋老農空をじつと見る

今朝早く小さな初夏が顔を出し

ジョギングの後にこくこく一夜酒

蠍座のしっぽの辺り笑ひをり

佐野萬里子

佐野萬里子

佐野萬里子

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

白井道義

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高田敏男

高田敏男

高田敏男

高橋きのこ

高橋きのこ

高橋きのこ

竹下和宏

竹下和宏

竹下和宏

龍田珠美

龍田珠美

龍田珠美

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中早苗

田中早苗

田中早苗

谷本 宴

谷本 宴

谷本 宴

合唱の舞台は棚田雨蛙  
 六月の花嫁躊躇するベーゼ  
 山の神昼寝の顔は福の神  
 人肌は気持ちがいいと藪蚊来る  
 キャンプ地に電波と電池持参する  
 知らぬ間に老鶯と呼ばれをり  
 家出して蛇屋根裏で舌を出し  
 麦飯を選びむしゃむしゃ鶴と亀  
 でで虫に五輪中止か訊いてみよ  
 “日常”が戻るのいつと虹に問い  
 徘徊も出来ぬ爺さん夏の星  
 口福の手作りイチゴ数へ食ふ  
 更衣コロナは変はず五七五  
 籐椅子やチャンネル妻に委(まか)せけり  
 水不足解消したぞ嫌な梅雨  
 石鎚の洒落たハットや梅雨の雲  
 オリーブ花散りて描くやポパイ顔  
 雷雲の近づく速さ去る速さ  
 しばらくは蜜柑の花の香に染まり  
 長屋門つづく旧道夏燕  
 六月の腐れ初めたる永田町  
 仲夏には似合う中華の啜り食い  
 議事堂のどこかで黴の臭いけり  
 数十年に一度の豪雨今年また  
 蓑虫を手本にステイホームかな  
 他の酒を気にせず孤高のビールかな  
 木と紙の家に首ふる扇風機  
 雨戸開け降ってきました青大将  
 ひくひくと横断中の毛虫かな  
 袋掛をはる歯科医の裏の庭  
 夏至の影ひきづつてをる巨石群  
 西瓜切る地球真つ二つにした気分  
 むつごろうなんの因果か泥まみれ  
 二度寝してしまひ憲法記念の日  
 梅雨に入るきざしはしりを省略し  
 ウイルスでふお化けうようよ子どもの日

田村米生  
 田村米生  
 田村米生  
 月城花風  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 堤 宏文  
 堤 宏文  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 長井知則  
 長井知則  
 長井知則  
 名本敦子  
 名本敦子  
 名本敦子  
 西をさむ  
 西をさむ  
 西をさむ  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 浜田イツミ  
 浜田イツミ  
 浜田イツミ  
 東 麗子  
 東 麗子  
 久松久子  
 久松久子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 日根野聖子

御仏の天蓋青し風薫る  
 ゲリラ雨蛙を恐れ戦かす  
 梅雨の闇いよ濃くして皆既月食  
 七月や早世ならず喜寿迎え  
 梅雨近し待ち焦がれてる接種券  
 鬱陶し梅雨もコロナも纏い付き  
 五月の予約子等一丸となっており  
 薔薇の香をマスクずらしてきいており  
 父の日の体内酸素測定器  
 羽抜鶏蹴爪擡(もた)げて見栄を切り  
 通気口地下の吐息か街薄暑  
 父の日や電動鋸のから唸り  
 夏シャツの胸に食ひ込むだつこ紐  
 眠られぬ金魚の糞が長すぎて  
 告白にむせ返す君心太  
 強運や天が味方の走り梅雨  
 妹に乳房奪はる万愚節  
 若沖の絵のなれの果て羽抜鳥  
 成熟を待たずにかじる青林檎  
 人の手に委ねる生死花卯木  
 胸中をアリスが走る麦の秋  
 夜狐は何かを隠し栗の花  
 サイダーのあわてんぼうの泡あわは  
 一陣の風に水田のひと騒ぎ  
 このごろは白ハンカチを見かけない  
 梅漬けるレシピは婆の脳の中  
 好きなのは栗の花よりモンブラン  
 海亀が帰る頃には母の顔  
 昼顔や雨降る午後の所在なげ  
 かたつむり尊徳像を見習ひて  
 夏期講座睡魔地獄の門を開け  
 孫からの電話に涙腺ゆるむ夏  
 空の色ますます青し紅の花  
 散歩道飾ってくれし犬ふぐり  
 蝌蚪の群S字S字を描きをり  
 栗の花香氣に不飽和アルデヒド

廣田弘子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 椋本望生  
 椋本望生  
 向田将央  
 向田将央  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫  
 百千草  
 百千草  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八塚一青  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳澤京子  
 柳澤京子  
 柳澤京子  
 柳村光寛  
 柳村光寛



サックスのエチュード網戸を抜けてくる  
 それぞれのシンコペーション鮎を釣る  
 富良野路の香り奏でるラベンダー  
 青梅のいろんな顔が並ぶ市  
 マンボウは蔓延防止策の略  
 水上のリンク独占あめんぼう  
 渡し守自ら渡るあめんぼう  
 薔薇に囲まれバラ園といふ別世界  
 風呂吹に新玉ねぎのまるごとを  
 梅雨晴間幼稚園児の駆け出して  
 店主言う活アジとアジはこう違う  
 婆の知恵夏は枕にタオル巻く  
 梅雨寒や渡り廊下の病棟へ  
 夏芝居男役者の白き足  
 風薫るワクチン接種の帰宅かな  
 また今年畳みしままの藍浴衣  
 初物のなすび分け合う隣組  
 午後三時小腹に収め柏餅  
 五月逝く空の青さを置き去りに  
 若葉寒とみに増えゆく路上飲み  
 野馬追や武者振り落す馬もみて  
 花檮(おうち)鼓笛隊の子ら送り出す  
 子の指に文句言はずや含羞草  
 空よりも青き翡翠や新車買ふ  
 薫風に誘はれ白きレース編む  
 青田道鳥語飛び交ふ五ヶ国語  
 ひらひらつん腹をつつつく雄金魚

山内 更  
 山内 更  
 山岡純子  
 山岡純子  
 山岡純子  
 山下正純  
 山下正純  
 山田真佐子  
 山田真佐子  
 山田真佐子  
 山本 賜  
 山本 賜  
 山家志津代  
 山家志津代  
 横山洋子  
 横山洋子  
 横山洋子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 渡部美香  
 渡部美香  
 渡部美香  
 和田のり子  
 和田のり子  
 和田のり子